

- ☆小林会長年頭挨拶
- ☆「クラシノソコアゲ応援団!RENGOキャンペーン」街宣行動
- ☆青年委員会「第28回定期総会」/女性委員会「第28回定期総会」
- ☆組合役員教育プログラム開講説明会、年間スケジュール
- ☆災害ボランティア救援隊研修(中級編)/ネット21運動普及・拡大キャンペーン
- ☆ネットワークSAITAMA21運動・NPO訪問
- ☆愛のキャンパ地域助成/もうすぐ選挙/1月の行動日程
- ☆あけぼのビル



2017年 謹んで新年のご祝詞を 申し上げます



小林直哉会長

小林会長 年頭挨拶

— 助けて!と 言える社会を 取り戻す —

明けましておめでとうございます。皆様には、よいお年を迎えられたことと存じます。日頃の連合埼玉の諸活動に対するご協力に感謝申し上げます。

新聞の時事川柳は、私たちの社会の関心事ごとを見事に17文字に凝縮し、いつも感心させられます。労働運動にもつうじる3作品を紹介します。

—この世相 眠り猫さえ 目を覚まし—

昨年は、英国のEU離脱の国民投票や米国トランプ氏の大統領選挙など、大方の予想を越える世界情勢でした。本来のあり様に対し、今の不満が強引に寄り切った結果でした。国内では、安倍政権の暴走が止まりません。TPP法案やカジノ解禁法案では、十分な説明や審議もなく数を頼りに強引に押し切りました。労働法制改悪の動きも加速しています。

そうした最中、日光東照宮の眠り猫が、60年ぶりに修復されました。以前の目は閉じていたようですが、資料に基づいて目を開けた姿になったそうです。私たちも目をしっかり開け、世界と日本の動きを見つめなければなりません。

—天災は 忘れる間もなく やって来る—

「天災は忘れたころにやって来る」は、寺田寅彦の言葉として知られています。しかし、その認識を改め

る必要がありそうな昨今の日本列島です。

昨年も熊本や鳥取で大きな地震があり、阿蘇山も36年ぶりに噴火しました。次がいつ来るかを知るすべはありませんが、次も必ず来ることだけは確かです。防災、減災の備えを忘れない一年を心がけましょう。そして、ひとたび災害が発生したら、阪神や東日本で培った「支え合いの力」を発揮したいものです。

—助けて!と 言える社会を 取り戻す—

働き過ぎで自ら命を絶つ労働者、奨学金という名の多額のローンを抱え将来の展望を描けない若者、貧困家庭で給食のない長期休みに食事をとれない子供たち。「助けて!」と声に出すのは、「ダメな人」「負け組」と決めつける分断社会になってはいないでしょうか。人は一人では生きていけないものです。そういえば、寅さんは「お互い貧乏人。助け合おうじゃないか」が、口癖でした。

連合埼玉は、こうした社会の不条理に対峙する運動を進めたいと思います。構成組織、地域協議会、そして組合員の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

本年が、皆さんにとってよき一年となるようご祈念いたします。

働く人が報われる社会の実現を!

～クラシノソコアゲ応援団!RENGOキャンペーン～

キャンペーン第2弾の取り組み

連合は、暮らしの「底上げ」に対する国民の意識を高め、一人ひとりの思いと国会での議論との橋渡しをする役目をより積極的に果たすことで、働く者・生活者の求める政策実現の動きを加速させることが必要である。

「クラシノソコアゲ応援団!RENGOキャンペーン」第1弾では、多くの国民がキャンペーンの訴えを自分の事と感じてもらえるよう4つのキーメッセージ(右記)を中心に幅広いテーマを取り上げ、また、働く者・生活者にとって共感を得やすい表現も用いながら、「働く人が報われる社会」にむけた社会システムの構築やワークルールの実現をめざし、組合員だけでなく広く国民に訴える取り組みとして展開してきた。この取り組みによって社会のうねりを作り出せるよう、暮らしの「底上げ」が重要であるとの確信を持って、今後も継続して取り組む。

キャンペーン第2弾では4つのキーメッセージを引き続き掲げ、自分の事として共感してもらえることを大事にしながら、広く社会の声を集め共感の輪を広げる「社会への運動」を進める。同時に、連合組合員の運動への参画をめざす「職場での運動」を高め、「ヨコの広がり」と「タテの深掘り」により社会のうねりをつくりだしていく運動を展開する。

■4つのキーメッセージ

- ・暮らし、苦しくなっていませんか?
- ・仕事、きちんと報われていますか?
- ・老後や子育て、不安はありませんか?
- ・いまの政策、働く人が主役ですか?

■取り組みテーマ

- ・奨学金制度の拡充に向けた取り組み
- ・介護士・保育士の処遇改善
- ・介護保険 軽度者への給付抑制
- ・雇用形態間の不合理な格差をなくす取り組み
- ・公正取引を実現する取り組み

上記のテーマに対し、それぞれ取り組みのピーク時期を設定し、推進する。

■取り組み期間

2016年10月～2017年7月(予定)

連合埼玉としては、独自に製作している労働法ハンドブックなども活用し、2017春季生活闘争や組織内外への労働教育などと連携した運動として展開していく。



キックオフ街頭宣伝行動(12月6日)

12月6日(火)17時30分より大宮駅東口にて「クラシノソコアゲ応援団!RENGOキャンペーン」第2弾の社会に向けたキックオフとなる街頭宣伝行動を実施した。

本行動では、小林直哉会長と労働界のトップである神津里季生連合会長から、「『クラシノソコアゲ応援団!RENGOキャンペーン』の取り組みをつうじ、『貧困』『年金問題』『長時間労働』などの社会的諸課題を解決し、『底上げ・底支え』『格差是正』を推し進めていく。みなさんの協力をお願いしたい。」と県民に訴えた。

また、連合非正規労働センターより12月6日～7日に実施した全国一斉労働相談ダイヤルの告知をおこない、あわせて、民進党 枝野幸男衆議院議員はアベノミクスの課題について、「下流老人 一億総老後崩壊の衝撃」著者の藤田孝典氏は労働組合の必要性について県民に訴えた。



代表者挨拶をする
小林会長



県民に訴える
神津連合会長



応援メッセージをおこなう
藤田氏



全国一斉労働相談ダイヤルを
紹介する連合非正規
労働センター岩城氏



応援メッセージをおこなう
枝野衆議院議員

青年層の想いを届け安心社会の実現を

青年委員会「第28回定期総会」

青年委員会は11月25日(金)、さいたま共済会館において「第28回定期総会」を開催した。

冒頭、矢口委員長より「私たち働くものを取り巻く情勢は厳しい。私たちは働く者の視点で『安心』『健康』『ゆとり』『働きがい』のある職場を作り上げていかなければならない。そのためにも、青年層からの要望を伝えていく必要がある」との挨拶があった。

総会では2016年度の活動報告、会計報告につづき、2017年度の活動方針、予算、役員体制が満場一致のもと可決された。

本総会をもって、これまで3年間尽力いただいた矢口委員長が退任され、新たに佐藤新委員長体制となった。佐藤新委員長からは、「青年委員会は産別をこえた関わりをもてるのが大きな魅力の一つ。これからも諸先輩の思いを引き継ぎながら、魅力ある青年委員会をみんなで作り上げていきたい」と所信が述べられた。



青年委員会メンバー

■2017年度役員体制

役職	氏名	構成組織名
委員長	佐藤 洋太	UAゼンセン埼玉県支部
副委員長	黒澤 富央	電機連合埼玉地協
事務局長	川島 貴至	運輸労連埼玉県連
幹事	磯山 英行	自動車総連埼玉地協
	小川 義人	JAM埼玉
	庄司 洋志	自治労埼玉県本部
	若狭 進介	JP労組埼玉連絡協議会
	大畑 恭平	埼玉県電力総連
	五十嵐 稔博	情報労連埼玉県協
	龍口 隆二	印刷労連
	半田 祥吾	JEC連合埼玉地連
	杉本 健太	JR総連埼玉県協
	安達 真明	全国ガス埼玉
大西 正洋	政労連埼玉地連	

■退任役員

役職	氏名	構成組織名
委員長	矢口 昌広	JR総連埼玉県協
幹事	金子 堯央	JEC連合埼玉地連
	前田 雄輝	JR総連埼玉県協
	門倉 進	全国ガス埼玉
	塚本 茂善	政労連埼玉地連
	天沼 毅大	建設埼玉

～あらゆる分野への男女平等参画を実現しよう～

女性委員会「第28回定期総会」

11月28日(月)あけぼのビルにおいて「第28回定期総会」を開催し、2016年度活動・会計報告ならびに2017年度活動方針案・予算案・役員選出の全議事が満場一致で承認・可決された。上杉委員長は冒頭、「女性活躍推進法が施行され、少しずつではありますが、女性が活躍する場が増えてきている。これからも女性が働きやすい環境をつくっていききたい」と述べた。その後、連合埼玉を代表して男女平等参画推進委員長の持田副会長、来賓として民進党埼玉県総支部連合会男女共同参画委員長の山本正乃県議会議員より挨拶があった。

総会終了後のセミナーでは「『わたしに役立つ香り探し』～気分チェック&アロマバームづくり～」を開催し、NARD JAPAN認定アロマ・トレーナーの小池まゆみ氏を講師に迎え、15種類のアロマの香りから自分の好みや心理的な面を踏まえた上で3種類の香りをブレンドしてアロマバームを作成した。自分の好きな香りとその日その時、自分に必要な香りは必ずしも同じではないことや、香りには心を落ち着かせるだけでなく風邪の時に必要な香りなど、さまざまな効果があることを知ることができ、参加者のみなさんも楽しい雰囲気の中で学ぶことができた。



第28回定期総会参加者のみなさん

■2017年度役員体制

役職	氏名	構成組織名
委員長	上杉 裕子	電機連合埼玉地協
副委員長	新山 元子	運輸労連埼玉県連
事務局長	伏見美千代	UAゼンセン埼玉県支部
幹事	田島由紀子	自動車総連埼玉地協
	木村あずさ	電機連合埼玉地協
	福田 祐子	JAM埼玉
	櫻井 克子	自治労埼玉県本部
	半田 純子	JP労組埼玉連絡協議会
	秦 敦子	埼玉県電力総連
	糸川 恵子	情報労連埼玉県協
	古賀 初代	印刷労連
	石井 恵美	国公総連埼玉
	滝沢千恵美	埼玉教組
	新井 京子	政労連埼玉地連
	細川千恵子	ユニオン連合埼玉

■退任役員

役職	氏名	構成組織名
事務局長	大畑 幸子	自動車総連埼玉地協
幹事	齋藤 舞	UAゼンセン埼玉県支部
	八戸 広美	埼玉県電力総連
	村山 実子	国公総連埼玉
	深井 智子	政労連埼玉地連
	中島 彩香	建設埼玉

共に学び、共に成長する

組合役員教育プログラム開講説明会

12月6日(火)ときわ会館にて、構成組織・加盟組合の教育担当者36名の参加のもと、組合役員教育プログラム「2017年度開講説明会」を開催した。

これは、一昨年に構成組織・加盟組合を対象におこなった「組合役員教育に関するアンケート」より、加盟組合に対するプログラムの周知度が低いことが課題として挙げられ、また、開催通知としても文章による通達だけでは、講座内容がつかめないという指摘もあり、本年度より基礎講座の募集開始時期にあわせ、説明会を開催することとした。

説明会では、組合役員教育プログラム運営委員長の大谷副会長より主催者代表挨拶の後、佐藤事務局長よりコンセプト説明、そして、講師もつとめていただいているj.union株式会社の大川守取締役より講座概要の説明、近藤副事務局長より受講者アンケートの結果報告と、2017年度スケジュールについて説明をおこなった。

組合役員教育プログラムは、基礎講座(8講座)、実務講座(6講座)、スキルアップ(6講座)と3つのカテゴリーにわけ、全20講座にて構成されており、学習による人材育成と、人材交流による人材育成の2つの観点を持ち、毎年開催している。

2017年度についても、基礎講座を1月下旬より、実務講座を5月中旬より、スキルアップを7月上旬より開催していく。



開講説明会の様子



大谷運営委員長

組合役員教育プログラム年間スケジュール

2017年度は下記のスケジュールにて開催します。基礎講座は募集中となっており、実務講座については3月下旬に、スキルアップは5月下旬より受講者の募集をおこないます。すべての講座は参加費無料となっていますので、多くの皆さんの参加をお待ちしております。

■基礎講座 時間10:00～17:00

日時・場所	講座内容
1/28(土) あけほのビル	①労働組合の意義と機能 ②組合役員の立場と役割
2/1(水) あけほのビル	③組合役員のためのコミュニケーション力開発①(リスニング) ④会議の進め方①(職場討議・集会の進め方)
2/4(土) ときわ会館	⑤これだけは知っておきたい労働法(労働法初級) ⑥健全な労使関係と働き方のルール(労働法中級)
2/8(水) ときわ会館	⑦労働組合の社会的役割～労働運動の起源 ⑧埼玉県の労働福祉運動の役割

■実務講座 場所:あけほのビル 時間:14:00～17:00

開催日	講座内容
5/10(水)	⑨労働組合の意義と機能
5/13(土)	⑩組合役員の立場と役割
5/17(水)	⑪労働組合が取るべき経営対策活動とは?
5/20(土)	⑫メンタルヘルスと職場での取り組み方
5/24(水)	⑬キャリア開発(より良い働き方を考える)
5/27(土)	⑭ミッション・ビジョンの重要性(過去から未来へ)

■スキルアップ 開催場所:あけほのビル

開催日時	講座内容
7/8(土) 13:00～17:00	⑮プレゼンテーション (納得性を高める伝え方)
7/12(水) 10:00～17:00	⑯組合広報誌の作り方
7/15(土) 13:00～17:00	⑰組合役員のためのコミュニケーション力開発②(アサーション)
7/19(水) 10:00～17:00	⑱組合役員のためのコミュニケーション力開発③(コーチング)
7/26(水) 13:00～17:00	⑲会議の進め方② (ユニオンファシリテーション)
7/29(土) 10:00～17:00	⑳イベント企画の立て方とその運営

災害時のチームビルディングとリーダーシップ

災害ボランティア救援隊 隊員研修(中級編)

12月10日(土)、連合埼玉災害ボランティア救援隊隊員研修(中級編)として、研修の相互受け入れをおこなっているJAM北関東ARCS主催の「災害ボランティア救援隊・継続研修(中級編)」に参加した。研修はJAM埼玉友愛会館にて、全18名(連合埼玉の隊員9名、ARCS隊員9名)参加のもと、開催された。

研修では、11月にARCS隊が実施した南相馬支援ボランティア体験報告の後、災害救援ボランティア推進委員会の宮崎賢哉氏より「災害時のチームビルディングとリーダーシップ」と題し、被災地へボランティアに行ったことを想定した図上訓練を、中級研修としては初めて実施した。

図上訓練では、6名のチームに分かれ、ボランティアに行くのに必要な装備品の確認から始まり、ボランティア現場での作業手順の確認、休憩の取り方、隊員の1人が体調不良になった時の対応、ゲリラ豪雨などの急な天候変化への対応、リーダー不在時の緊急事態への対応、活動終了後の行動など、現場で起こる様々な問題・課題を想定し、リーダーが中心

となり、チームで話し合いながら解決をめざしていく演習をおこなった。

1人ではなかなか気づけないこともチームで話し合うことで色々な案が出され、講師の長年の経験から対応すべき行動にチーム全員が納得し、また、次に来るボランティア隊のために今日何ができるかを考え行動する必要があることを学ぶなど、隊員としての資質向上につながる研修となった。



研修会の様子

ネットワークSAITAMA21運動(ネット21運動)

2017年度ボランティアカード 普及・拡大キャンペーン!

ネットワークSAITAMA21運動って?

ネット21運動は、連合埼玉と埼玉労福協が推進母体となり、勤労者の暮らしを生涯にわたってサポートする運動や子育てや介護をはじめ、地域社会で解決しなければならない問題に取り組むため、労働運動や労働者福祉運動と、埼玉県内の様々なNPOや市民団体との連携を通じ、働く者と地域の市民が出会い、理解しあって、勤労者の生活と暮らしを支え合う「共生の地域社会づくり」をめざす運動です。

ボランティアカードとは?

ボランティアカードは、「ネット21運動」への協力の証として発行されるものです。ご協力をいただいたカード協力金(500円)の内、契約料やカード作成費などを差し引いた額が「ふれあいコミュニティ・ファンド」に寄付され、各種セミナーやNPOへの支援など、「ネット21運動」の様々な事業に活用されています。なお、カードはAタイプ(約200円がファンドへ寄付)とBタイプ(約400円がファンドへ寄付)との2種類があり、Aタイプのみリゾートソリューションのサービスが付いています。また、A・B共通の埼玉県内を中心としたサービスもあります。詳細はホームページ(<https://net-saitama21.jp>)でご確認ください。

普及・定着のための説明会を開催させていただきます!!

構成組織、加盟組合、地域協議会にて説明会を開催させていただきます。皆様の会議等でお時間を頂ければ、事務局から派遣し、説明をさせていただきます。ぜひ、お声掛けください!

ネットワークSAITAMA21運動の更なる協力に向けて

～2015年度パソコン寄贈団体への訪問・意見交換実施～

ネットワークSAITAMA21運動(以下、ネット21運動)では、県内各地で活躍するNPOや市民団体を支援し、連帯や協働をさらに進めるためNPO応援・物品助成プログラムとしてパソコン寄贈を実施している。この活動は2007年度より実施しており、2016年度までに101台のパソコンを寄贈してきた。

今年度からは、ネット21運動運営委員会事務局が直接NPO等を訪問し、寄贈して半年以上が経過したパソコンの利用状況や、ネット21運動とNPOとの連携について意見交換をおこなう取り組みを始めた。

今年度は、2015年11月19日(木)に開催した連合埼玉第14回定期大会にて贈呈式をおこなった10団体を対象に、2016年8月19日から12月14日の期間で訪問した。

訪問先では、食育や介護、育児、地元とのイベント企画や障害者支援など分野は異なるが、自治体では対応が容易でないそれぞれの分野で活躍されていることを確認できた。また、ネット21運動との連携については「出前講座での講師派遣」「ネット21地域

事務所を利用した講座開催」「訪問ツアー受入」「政策制度要請に関わるヒアリング受入」など多くの分野で連合埼玉と連携することが可能だと分かった。

寄贈したパソコンについては、「財政規模が小さく、以前は代表が自前で用意したパソコンを利用して作業をおこなっていたが、経年で新たにパソコンを購入することが困難な状況となり、その時にネット21運動を知り、応募した。新しいパソコンは自宅パソコンとの共用ではなく、団体としてのパソコンなのでスタッフ全員が使いやすくなった」と多くの団体が話された。今回寄贈した全てのパソコンは、各NPOの会報やイベントの案内チラシ・ポスター作製、イベント時の団体PRや市への報告書作成など多岐にわたって活躍している。

今回訪問し、多くのNPOがパソコン寄贈を通じてネット21運動をより理解して頂いたと実感した。連合埼玉は、引き続き埼玉労福協と連携をとり、ネット21運動を労働組合のみならず地域社会に浸透する運動となるようNPO、市民団体とも協力しながら進めていく。



活動状況の報告を受ける



寄贈したパソコン



実際の活動を見る



各課題について意見交換

【訪問日時・訪問先】

8月19日

15:00～ 大人の学校

8月23日

10:00～ 埼玉映画ネットワーク

9月14日

13:00～ ふうせん

10月27日

13:30～ 越谷プレーパーク

11月5日

15:00～ ホットおしゃべりサロン

12月13日

14:00～ ねがいのいえ

16:00～ ウェルハーモニー

12月14日

9:30～ 行田のぞみ園

11:00～ 地域活動支援センターこすもす

13:30～ 全国福島県人友の会

「連合・愛のキャンパ」地域助成・支援団体募集中!

「連合・愛のキャンパ」では、社会貢献活動に取り組むNPO・NGO団体の支援活動をおこなっています。連合組合員およびその家族、あるいは退職者が、積極的に運営に参加している団体が行う事業・プログラム、または地方連合会が日常的な活動で連携している団体が行う事業・プログラムを対象とし、助成金を寄贈していますので、お知り合いのNPO団体がありましたら、ぜひ、ご紹介ください。

【応募期間】

2017年3月31日(金)まで

※応募には地方連合会の推薦が必要となりますので、まずは、連合埼玉・連帯活動局までお問い合わせください。詳細は、連合ホームページをご覧ください。
(<https://www.jtuc-rengo.or.jp>)

【対象となる社会貢献活動】

1. 大規模災害などの救援・支援活動
2. 戦争や紛争による難民救済などの活動
3. 人権救済活動
4. 地球環境保全活動
5. ハンディキャップをもった人たちの活動
6. 教育・文化などの子どもの健全育成活動
7. 医療や福祉などの活動
8. 地域コミュニティ活動
9. 生活困窮者自立支援活動



※ポスターを、1月中旬より構成組織に送付します。

連合・愛のキャンパとは？

人道主義の立場から「自由、平等、公正で平和な世界の実現」に向けた社会貢献活動として取り組むもので、NGO・NPO団体などの事業・プログラムへの支援、および自然災害などによる被災者に対する救援・支援を目的としています。

もうすぐ選挙

川越市長選挙

▶川合 善明(かわい よしあき) 66才(無・現2・連合埼玉推薦2回目)
告示日:2017年1月15日(日) 投票日:2017年1月22日(日)

現在予定される1月の日程表です

1月	連合埼玉・事務局	行事等	地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日			
2日			
3日			
4日			
5日			
6日			
7日			
8日			
9日			
10日	①第2回四役・執行委員会(10:00~13:00~ときわ会館) ②2017新春のつどい(16:00~ときわ会館)	連合「連合白書学習会」「最低賃金担当者会議」(13:30~連合会館)	
11日	第1回組織委員会(10:00~連合埼玉会議室)	①建設埼玉「2017年新春の集い」(15:00~ラフレさいたま) ②埼玉経営者協会「新年会員懇談会」(13:30~パレスホテル大宮) ③第7回地方連合会事務局長会議(13:30~全電通ホール)	
12日		①自治労埼玉「2017新春旗開き」(18:00~さいたま共済会館) ②埼玉県社会保険労務士会「新年賀詞交歓会」(18:00~ラフレさいたま)	
13日		①情報労連埼玉県協議会「2017新春の集い」(15:00~ときわ会館) ②東部地域協議会「2017新春のつどい」(18:30~アクシス春日部)	
14日		①川越・西入間地域協議会「第5回地協委員会」[2017新春旗開き](14:00~ラ・ポア・ラクテ) ②JP労組埼玉連絡協議会「2017新春の集い」(17:00~ときわ会館)	
15日		川越市長選挙告示日	
16日			
17日			
18日			
19日	青年委員会「第2回幹事会」(18:00~連合埼玉会議室)	埼玉県私鉄「2017年団結旗開き」(18:00~さいたま共済会館) ①第6回地域労福協代表者会議(13:00~ときわ会館) ②第6回政策制度会議(15:00~ときわ会館)	
20日	女性委員会「第2回幹事会」(18:00~連合埼玉会議室)	秩父地域協議会「地協委員会」「新春の集い」	
21日			
22日		川越市長選挙投票日	
23日			
24日	埼玉シニア連合「第1回四役・幹事会」(13:30~15:00~連合埼玉会議室)	①公明党埼玉県本部「新春賀詞交歓会」(18:00~浦和ロイヤルパインズホテル) ②熊谷・深谷・寄居地域協議会「第6回地協総会」[2017年新春の集い](18:15~19:30~熊谷キングアンパ(サターホテル)) 埼玉県生産性本部「新春労使懇談会」(15:30~18:30・ソニックシティビル604会議室)	
25日	第1回政策・制度委員会(15:00~連合埼玉会議室)		
26日			
27日			
28日	組合役員教育プログラム基礎編①②(10:00~あけぼのビル3F)	①さいたま市地域協議会「第12回地協委員会」「新春の集い」(18:00~ときわ会館) ②本庄・児玉郡地域協議会「第15回地協委員会」[2017年新春のつどい](18:00~19:00~埼玉グランドホテル本庄) ③社民党埼玉県連合「新春のつどい」(18:00~さいたま共済会館)	
29日	2017春季生活闘争パワーアップセミナー(10:00~あけぼのビル3F)	①関東ブロック「2017女性会議」(13:00~1/30 12:10~あけぼのビル) ②運輸労連埼玉県連「2017年旗開き」(18:00~ホテル鬼怒川 御苑)	
30日		JAM埼玉「羅達パーティー」(17:30~パレスホテル大宮)	
31日	第1回広報委員会(16:00~連合埼玉会議室)	JR総連埼玉県協「2017年旗開き」(18:30~東天紅)	

Akebono Building

あけぼのビル

事務局長

佐藤 道明

連合埼玉は、2004年4月に「出会い・つながり・支えあい」をキーワードに、①共生の地域社会づくりへの積極的参画、②勤労者の生涯サポート活動、③市民社会との連帯と協働、に取り組む運動として「ネットワークSAITAMA21運動(略称「ネット21運動」)」をスタートさせた。

「ネット21運動」は、連合埼玉と埼玉労福協が推進母体となって、「新しいカタチの労働運動・労働福祉運動」として、埼玉県内の様々なNPOや市民団体への支援と連携をつうじ、働く者と地域の市民が出会い、互いにつながり、働く者や市民の暮らしをともに支え合う「共生の地域社会」をめざす運動である。

新年を迎えると1月11日～2月24日の間、「ネット21運動」を支える貴重な活動資金となる「ボランティア・カード」の協力をお願いすることとなる。今回は「ネット21運動」について記述する。

◆「ネット21運動」が生まれた背景

「ネット21運動」は、連合埼玉が結成されて丸8年が経過した1997年の第5回定期大会で、これまでの運動を一度「棚卸し」をして、①今後も発展・継承すべき運動課題は何か、②新たにに取り組むべき運動課題は何か、③18万人という連合埼玉に加盟する仲間のスケールメリットを発揮する運動は何か、の3つの課題について論議をし、新たな自主福祉運動の構築をめざすことを確認した。その後、連合埼玉の様々な機関で組織討議をおこない、約5年間の準備期間を経て、2003年11月の第8回定期大会で、連合埼玉から5千万円を拠出することなどを決定し、翌2004年の4月に運動をスタートさせた。

連合埼玉が結成された1989年は、バブル経済のピークにあたる。その後のバブル崩壊と同時に、日本経済は一転して構造不況に陥り、産業空洞化現象が起こった。また、多くの企業では国際競争力強化の名のもとに大規模な雇用調整による人員削減や、従業員の福利厚生部門も含めたアウトソーシングがおこなわれた。

このような構造変化は、成長を前提とした「企業依存型の生活保障システム」の崩壊をも意味し、これまでの「賃上げ要求」などの対産業・企業を中心とした組合活動のあり方にも大きな課題が投げかけられた。

このような背景の中で生まれた「ネット21運動」は、地域の多様なNPOや市民(団体)とも連帯・協働する、働く者と市民とのネットワーク型の「新しいカタチ」の労働運動とも言える。

◆なぜ、NPOとの連帯・協働なのか

少子・高齢社会の進展や環境問題の深刻化などに

ともない、市民の公共サービスに対するニーズは多様化し、その対応のために膨大な行政コストが必要になっている。このような状況から、従来の「公助」に頼ることなく、市民の「自助」を基調とした市民主体の社会の実現が望まれるようになってきた。さらに、度重なる災害などの教訓からも「共助」の必要性が唱えられている。このような社会の構築に向けた新たな流れを生み出す原動力として、新たな公共の担い手であるNPOの役割が期待されている。

労働組合の活動においても、組合員のニーズが多様化する中で、従来のように労使協議だけでは解決できないことが増加している。少子高齢社会においては、ますます地域の大切さが求められ、子育てや介護など地域で解決しなければならない課題が山積している。

NPOは行政の持つ公平性や企業の持つ利潤追求という社会的価値にとらわれず、社会的課題に対して迅速で先駆的な取り組みができるとともに、それぞれの多様な価値観と人間性に基づく自由な意思により、個別的で柔軟な社会サービスの提供が可能である。また、こうした取り組みから社会への問題意識を持ち、行政や企業に対して市民の立場からチェックし、独自の提言をおこなうことができる。

◆「共に考え、共に行動する」活動への転換

このような活動組織と労働運動が、さらに連帯・協働を進めるためには、NPOへの支援活動を中心とした現在の活動から、「共に考え、共に行動する」活動へと転換していく必要がある。

従来の地域社会におけるコミュニティの弱体化によって、「安全と安心の国」から「不安と不信の国」へと日本の安全神話が崩壊しつつある。労働運動が新たな地域社会づくりの主体として、その力を発揮するためには労働運動が培ってきたノウハウを地域へ解放していくことが必要である。働く者や生活者が地域の課題に気づき、それを皆で共有化し、課題解決に向けての方策を見つけ、解決に乗り出していくというプロセスがこれからの地域社会づくりには重要である。NPOの専門的活動とその経験を労働運動の政策制度改善要求につなげることができれば、労働運動の政策立案能力もさらに向上し、働く人や生活者に共感を得られる運動の強化につながっていく。さらに、労働運動が持つ政治や行政との関係をNPOと結びつけることで政策実現能力の向上も期待できる。

職域運動の労働組合と地域運動のNPOの協働を進め、地域を新たな制度や仕組みにつながる「種」を生み出す場、社会変革の実践の場とするために「ネットワークSAITAMA21運動」を前進させていく。皆さんの更なる協力をお願いする。

2016.12.20